

## 地域のライフラインを守るという使命を果たすため、 業務システムのディザスタリカバリ対策を SharePlex®によるリアルタイムレプリケーション 技術で実現

### The Company

福島県いわき市に本社を置く株式会社マルトグループホールディングス（以下、マルト）は、スーパーマーケット（食料品）を中心に、くすり（医薬品/調剤薬局）や総合衣料など、多岐にわたる事業を行っています。そのシェアはいわき市において50%、日立市において30%を超えるなど、ドミナント戦略により、地域のお客様に根差した店舗を展開しています。

マルトは、お客様に選ばれて成長してきた企業として、地域のライフラインを守るという使命を持っています。そのため、放射能測定の自主検査を実施したり、マルトグループのマルト惣菜工場が食品安全マネジメントのISO22000を取得するなど、流通経路から販売までの食の安全を追求しています。また、地域貢献としての食育推進室を展開し、環境ECOへの取り組みも積極的に行っており、お客様とともに、環境にやさしい地域一番店を目指しています。

### The Challenge

マルトでは、Oracle上で稼働する財務会計および人事給与システムを導入しており、これらのシステムを準基幹系として位置づけ、社内のサーバールームで運用を行っていました。従来は、各店舗のPOSデータ等については別途基幹系として、外部のデータセンターにサーバを持ち、ASPにてデータを使用しており、データ保護を任せていたのですが、準基幹系のデータは、日々社内のサーバールームにある他のSQLサーバに夜間スケジュールによるコピー等を行っていました。

東北地方においては過去に何度か震災があり、そのたびに準基幹系のデータのディザスタリカバリ対策について話し合った時期があったのですが、社内の会議にてコンセンサスを得られませんでした。

そんな状況の中、2011年3月11日に東日本大震災が発生しました。マルトでは、幸い建屋自体は壊れず、停電もそれほど長引かなかったため、サーバに対する影響はありませんでした。しかし、本社の老朽化もあり移転が検討され、システム更新によるパフォーマンス向上と併せてデータ保護の必要性について、見直すこととなりました。このたびの震災を教訓に、バックアップの必要性を役員同士で痛感したことがきっかけになっています。

様々なメーカーから、新しいデータ保護の仕組みについて提案がありましたが、データそのものは保護できるものの、災害時にはシステムやプログラム環境等は再構築が必要であったり、システム自体のリカバリは別途実施しなければいけない提案ばかりであり、万が一の際に、状況によってはベンダーやシステムインテグレータの協力が得られないかもしれない状況の中で、自社でなんとか復旧をすることができないものばかりでした。

そこで、同じシステムが別に存在して、そこにデータがリアルタイムで複製できるような提案を受けるべく調査していたところ、Questのパートナー企業よりSharePlex for Oracleの提案がありました。

「ベストマッチでした。古いOracle9iの処理が遅くなっていたところに、Oracle11gR2へのバージョンアップをしたタイミングで、長年の課題であったディザスタリカバリ対策を、短期間かつ高いコストパフォーマンスで導入することができました。」

- 株式会社マルトグループホールディングス  
管理本部 常務取締役 副本部長  
兼 財務本部 本部長  
森田 勝次 様

「従来方式のバックアップでは、特にOracleの場合には障害時の復旧が難しく、業務の再開までに時間がかかってしまいます。SharePlexを使用して、異なるシステムに常時データが複製されていて、いざという時に簡単に切り替えられるのは、安心感が違います。」

- 株式会社マルトグループホールディングス  
管理システム部  
部長 比佐 勝明 様



## The Solution: SharePlex for Oracle

SharePlex for Oracleは、Oracle データベース専用のレプリケーションソフトウェアであり、既存のデータベース環境に大きな変更を加えることなく、複製したいデータベースへリアルタイムに変更内容を反映させることが可能です。

今回製品の選定にあたり、システム要件を満たすことができた他、大きなメリットがありました。

### 採用理由) 複製先が常に使用できる状態であること

複製先が常時稼働していて、複製先がうまく活用できる良いソリューションであり、万が一運用系がダウンしてしまった場合でも、短期間でのアクセス切り替えにより、複製先にそのまま書き込みができるというのは、大きなメリットであり、要求にマッチしていたということです。

### 採用理由) 直前までのデータを確実に保護

独自のリアルタイム レプリケーション技術により、複製元のデータができるだけ遅延が少ない状態で、複製先へと転送されます。

### 採用理由) 複製時のデータトラフィックを最小限にできる

SharePlex for Oracleは完全にデータの更新情報のみを、テーブル単位で限定しながら転送することが可能であり、結果としてできるだけ少ないデータトラフィックによる通信を実現しています。

### 採用理由) Oracle Standard Editionでの利用ができた

サーバのCPU自体がマルチ Core化していることもあり、1CPUソケットもしくは2CPUソケットのマシンでも十分な性能が出るようになっていきます。今回、Oracle 9iから11gR2へのバージョンアップと同時に、SharePlex for Oracleの導入を実施したのですが、OracleがStandard Editionでも動作し、リーズナブルな導入費用で済んだということがあります。

### 採用理由) 短期間での導入

本社の移転に合わせた新たなデータ保護の仕組みは、待たなしというコンセンサスが役員の中であり、提案から実際に稼働するまでを短期間で実施する必要性がありました。とても良い仕組みなので、すぐに導入しようということで実際にプロジェクトが開始してから3か月で本番稼働を迎えることができました。

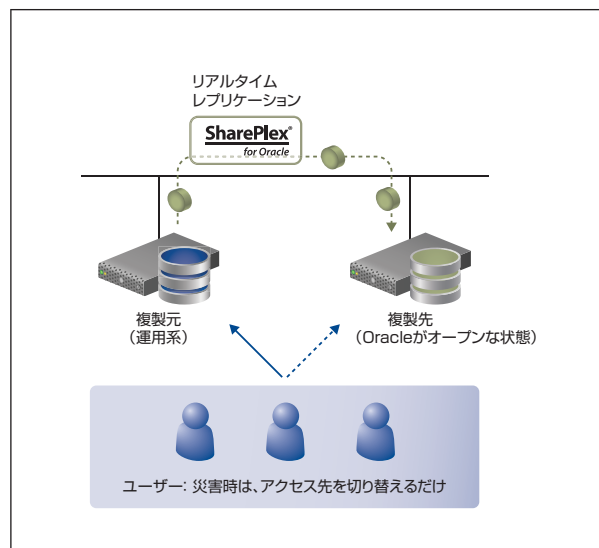
結果的に、当初の目標としていた災害時の復旧時間について要件を満たせるようになっただけでなく、短期間でとても費用対効果の高いソリューションを導入することができました。

## The Future

今回の稼働開始時には、新社屋の免震構造を持ったサーバールーム内での2台のサーバ間での動作が行われますが、将来的には、地域的な災害が発生した際の対策として、複製先を遠隔地のデータセンター内のサーバ等へ行うことが検討されています。

また、このたびの導入をきっかけに準基幹系と呼ばれる他のサーバ群についても、Oracleが稼働しているサーバについては、すべてに活用していきたいとしています。

その際には、現在は1業務1サーバで運用しているものを仮想化によって統合することも検討しており、Questが持つ仮想化管理ソリューションにも期待を寄せています。



## OVERVIEW

### Industry:

小売業

### Challenge:

準基幹系のシステムを、いざという時、簡単に切り替え、業務を止めないようにするディザスタリカバリシステムを、高いコストパフォーマンスで、かつ迅速に導入することで、地域のライフラインを守ることに貢献する。

### Application:

• Oracle Database

### Solution:

• SharePlex for Oracle

### Operating System:

• Windows Server 2008R2

### Benefits:

- 準基幹業務のディザスタリカバリ対策
- リアルタイムレプリケーション
- 簡単な操作



日本クエストソフトウェア株式会社  
〒160-0023 東京都新宿区西新宿6-10-1 日土地西新宿ビル 13F  
PHONE 03-5908-3511 | WEB www.questsoftware.jp | E-MAIL Sales.JP@quest.com

© 2012 すべての著作権は日本クエストソフトウェア株式会社が所有しています。

本カタログに使用されているQuest, Quest Software, Quest Softwareのロゴ, SharePlex®, NetVault®は、米国、日本、およびその他の国におけるQuest Software社の商標もしくは登録商標です。その他の会社名、製品名、サービス名は各社の商標もしくは登録商標です。 QCL113J-1A 12/08